

令和 4 年度

福祉作文コンクール入選作文集



目次

小学校低学年

最優秀作	交流会をしてかわったこと	……	侍浜小学校	三年	小山田 幸禾	……	1
優秀作	交流をしてわかったこと	……	侍浜小学校	三年	桑田 紗那	……	2
佳作	しょうがいがあっても同じ	……	侍浜小学校	三年	尾無 結衣	……	3

小学校高学年

最優秀作	わたしたちにできること	……	小久慈小学校	四年	大下 栞奈	……	5
優秀作	今ぼくたちにできること	……	小久慈小学校	四年	奥寺 瑛太	……	6
佳作	みんなのユニバーサルデザイン	……	長内小学校	四年	谷村 幸永	……	7
佳作	福祉のことを学んだよ	……	長内小学校	四年	柏木 音愛	……	8

中 学 校

最優秀作	自分にできることから	山形中学校	二年	田中彩遥	9
優秀作	人の輪と幸せ	長内中学校	三年	速應一弘	10
佳 作	あなたの世界で	久慈中学校	三年	尾形 滢	11
佳 作	福祉について	久慈中学校	二年	小向冬愛	13
佳 作	福祉は幸せという意味	長内中学校校	二年	小笠原光凜	14

高 等 学 校

最優秀作	「思いやり」	久慈東高校	二年	南野結月	17
優秀作	負け組なんかじゃない	久慈東高校	二年	高山七楓	18
佳 作	家族の介護と私の夢	久慈東高校	二年	廣崎七海	20

審査委員の感想	22
---------	-------	----

応募者・入選者	24
---------	-------	----

実施要項	26
------	-------	----

審査委員	28
------	-------	----

最優秀作

交流会をしてかわったこと

侍浜小学校 三年

小山田 幸 禾

わたしは、しょうがいがあってもみんな同じだと思います。どうしてかというと、しょうがいがあっても、みんな勉強をしたり苦手なことをがんばったりしているからです。こう思うようになったきっかけは、一学きのたくようしえん学校との交流会です。

一学きの交流会では、たくようしえん学校へ行き、友だちとお話をしたりゲームをして遊んだりしました。わたしは、はじめは、きんちようしていました。でも、ペアになった子がやさしく話しかけてくれました。じこしょうかいでは、ペアの子が「高いところが苦手」と教えてくれました。わたしも高いところが苦手です。「苦手なものが同じだ」と少しうれしくなりました。その後のたからさがしゲームでも、「ここにあるよ。」「こっちきて。」とペアの子が言ってくれたので、いつの間にかきんちようもなくなり、楽しい時間をすごすことができました。そして、わたしたちのために、おり紙のメダルを作ってくれていて、とてもうれしくなりました。少しの時間の交流だったけど、ペアの子ととてもなかなかよくなりました。早く二回目の交流会がこないかなと思っています。

わたしは、この交流会をしてみても、考えが一つかわりました。それは、しょうがいがある人も、ない人も、できることがあればできないこともあるということです。そして、わたしたちと同じように、しょうがいのある人は苦手なことをできるようになろうとがんばっていることもわかりました。わたしも、わり算や漢字を書くのが苦手です。でもできるようにがんばっています。こんどの交流会では、やさしくしたりしょうがいがあってもやりやすい遊びを考えてあげてよろこんでもらいたいなあと思います。



交流をしてわかったこと

侍浜小学校 三年

桑 田 紗 那

「しようがいつて、なんだろう。」

わたしが思っていることです。どうしてかというのと、わたしはしようがいのある人に会って、話したことがなかったからです。だから、一学きに学校の先生から、たくようしえん学校との交流をされると言われたとき、何のためにある学校なんだろうとふしぎに思っていました。

当日、交流会のために、たくようしえん学校に行きました。はじめ、ペアの友だちといっしょに、魚つりゲームをして楽しみました。

「いっばいつれてすごだね。」

とペアの友だちと話しました。さいごの感想で、同じグループの中に、しゃべれない子がいることに気がきました。その子は、そばにいる先生といっしょに、手をつかって自分の言葉を伝えていました。そのときに、

「しようがいつてこうゆうことなんだ。」

とわかりました。その子は、しゃべれなくても、がんばって伝えようとしていました。わたしも、その子のように、にがてなことががんばろうと思います。

「しようがいつてなんだろう。」

少しわかりました。でも、なんでしようがいつて言うのかなと思います。それは、交流をしてみても、わたしもしようがいのある人も同じだと思っただけです。話すのがにがてな子がいるように、わたしもにがてなことがあります。私は絵をかくのがにがてです。でも絵をかくのがとくいになりたいと思っています。たくようの友だちも、がんばって話そうとしていました。にがてがあっても、がんばるところがいっしょです。つぎの交流会では、話すのがにがてな友だちが話せるように、助けてあげたいです。



しょうがいがあっても同じ

侍浜小学校 三年

尾 無 結 衣

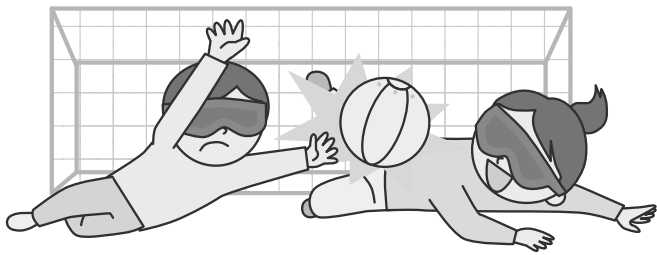
わたしは、しょうがいのことをよく知らない人に、しょうがいがあってもわたしたちと同じく相手を思いやるやさしい心があることを知ってほしいです。実は、わたしもさいしょしょうがいのある人と会うまでは、しょうがいのある人のことをよく知らなかったからです。

わたしが、しょうがいのある人について知ったのは、たくようしえん学校との交流会です。交流会に行くまでは、「どんな学校かな。」「どんな子がいるのかな」ときんちようしていました。でも、学校につくと、げんかんでたくようの子が、やさしくむかえいれてくれました。ペアの子だとわかるように、顔つきのうちわも、もっててくれたのです。それを見て、親切な子たちだなと思いました。交流会では、たからさがしゲームをしました。そこでも、ペアの子はやさしく、学校をあんないしてくれました。はじめ、しょうがいのある人のことはよくわかっていなかったけど、やさしい人たちだということがわかりました。

でも、一回の交流だけでは、すきなことやすきなもの、にがてなことなど、わからないことがたくさんあります。だから、

もつと知りたくなりました。これからは、しょうがいのある人が助けをひつようとしたら、助けてあげたいなあと思いました。そしてしょうがいがあってもなくても同じということを見んなにしてもらいたいと思います。「しょうがいがあってもみんな同じ」ということをひろめれるようにどりよくしたいと思いました。





わたしたちにできること

小久慈小学校 四年

大下 栞奈

わたしは、総合の学習で車いす体験や白杖体験をしました。体験をする前は、車いすのそうさはかんたんかなと思っていましたがやってみたら思っていたよりもおもしろいし、ステッピングバーというところをふんで前の小さな車輪をうかせてだんさをのぼったりするのが大変でした。とくに大変だったのは、だんさをおろす時にうしろ向きでおろすとき車いすをまわすのがとてもおもしろくて大変でした。

体験は、やる前は少し楽しそうだなと思っていただけ、のつてみると声かけをしてもらわないで急にうごくとき少しびっくりするしだんさをおろすとき「ダンッ」と音がして少しこわかったです。スロープがないかいだんの上り下りは一人だけではできないから大変でした。

車いすの人たちのためにかいだんにはスロープをつけたり、まわりの人がやさしく声をかけて助けてあげたりすると車いすの人も安しんしてでかけられると思いました。

白杖体験をする前は、まわりが見えなくてこわいかなと思っていたけどじっさいにやってみると自分がいまむかっている場所がどこかわからないし思っていたよりもくらくてこわかった

です。かいだんもいつもあるいてるかいだんじゃないと高さがわからないからこわいだろうなと思いました。でも目の不自由な人にとってはそれがふつうの生活だから「すごい」と思いました。

介助では、目の不自由な人にあっちこっち！がわからないから少し大変でした。目の不自由な人はマラソンなどをするときはきずなというひもで目が見える人と走るそうです。目が不自由なのにすごいと思いました。

目の不自由な人のためには、点字ブロックをふやしたり、音のなるしんごうをふやしたりすればいいと思います。あと、目の不自由な人たちがこまっていたら声をかけてあげたいと思います。

体験で思ったことは、もし自分が足の不自由な人や目の不自由な人だったらわたしは、みんなに自分のことをぜんぶやってみようのは少しやだなと思いました。自分が何もできない人になりたくなかったからです。目が不自由な人や足が不自由な人も一人でできることは、たくさんあるから自分もみんなと同じ一人の人として見てほしいです。そして自分一人でできないことや、自分がこまっているときは、みんなに助けてもらいたいです。わたしは体が不自由な人でも一人でできることはたくさんあると思います。それに、体の不自由な人でもその人にかできないことがたくさんあると思いました。

どんな人でもこまっていたらまずは助けてあげることが今わたしたちにできることだと思いました。

今ぼくたちにできること

小久慈小学校 四年

奥 寺 瑛 太

ぼくは、キャップハンディ体験しました。車いすに乗りして、介助する人がステッピングバーを使うときに、

「バーをあげるよ。」

などと声がけがないと、急にガタンとなつてびっくりするの
で、介助をするときには声がけをするようにしたいです。

アイマスク白杖体験の方では、かいだんをのぼるとき、学校
のかいだんでやってみたら、学校のかいだんはいつも使ってい
てなれているので、だいたいの感覚でのぼれたけれど、ほかの
なれていない場所だともしかしたらかいだんが急かもしれない
し、カーブがあつたりするかもしれないので、白杖がどれだけ
必要なのかわかりました。でもいくらなれた場所でも、やつぱ
り不安があつたので、介助があると助かりました。それに、介
助するがわには、一人のいのちがかかっています。

そういうわけで、介助するがわには、ただ助けるわけではな
く安全に介助するせきにながあるので、介助するがわもちゃん
としたしじを出さなきゃいけないことがわかりました。

もし自分や自分の家族、友達の体が不自由になつてしまつた
ら、介助してもらいたいし、家族や友達にできることは、自分

から一番先に介助したいです。でも一人では介助しきれないこ
ともあるので、みんな協力して体が不自由な人を介助したい
です。

ぼくが、キャップハンディ体験をして思ったことは、体が不
自由になつたときには、介助されたらうれしいことと、気がら
くなることです。だからぼくは、体が不自由な人を見つけた
ら、せっきよくてきに声をかけ自分から先に介助をしたいで
す。

最近のたてものには、スロープや手すりがついているので、
車いすの人や体が不自由な人にとっては安全に生活できるとこ
ろもふえてきています。でもまだついていないたてものや場所
もたくさんあるので、スロープや点字ブロックなどもっとふ
えると、目が見えない人や、車いすでちよつとのだん差をのぼ
れない人にとってはとてもうれしいことだと思います。

「すべてのたてものにバリアフリーを」
それを実現させるために、みんながそういう気持ちを持つてほ
しいです。



みんなのユニバーサルデザイン

長内小学校 四年

谷村 幸永

みなさんは、ユニバーサルデザインを知っていますか。シャンプーのよう器には、ギザギザがつけられています。このことでリンスと区別がつくので目が不自由な人や目をつぶっている人に便利です。つまり、このようなしょうがいのある人にもない人にも便利で「みんなが使いやすい」物を作ろうというデザインの考えが「ユニバーサルデザイン」です。

「ピクトグラム」という、駅や町で見かける絵文字のかんばんやトイレの男性用の絵なども、だれが見ても一目で何の記号かわかるデザインになっています。これらは、しょうがいがある人だけでなくだれもが便利な「ユニバーサルデザイン」といえます。

ほかにもないか、たんじんの先生に聞きました。なんと、学校にもたくさんあることがわかりました。学校には四こありました。一つ目は、教室の前には、あまり目立つ物を置かないことです。二つ目は、教室の本だなのところにカーテンをしています。なぜかという、みんなが勉強に集中しやすくするためです。三つ目は、多目的トイレがあることです。けがをしている子やおなかがいたい子が使います。ぼくも入ったことがあります。

ます。広くて、落ちついてトイレができます。四つ目は、ろう下に白い線が引かれていることです。線があることでどつちを歩けばよいのか分かりやすいです。

ぼくは、学校にいっぱいユニバーサルデザインがあるんだなあと思ったら教室の本だなのところにカーテンをしてくふうしているんだなと思いました。ユニバーサルデザインがあることで、どんな子でも集中して学習できるようになっているんだなあと思いました。

ぼくは、ユニバーサルデザインも大事だけど、おたがいに助け合う気持ちも大切だと思います。ユニバーサルデザインだけでは、気持ちまで十分に助けてあげることができないと思うからです。だからぼくは、いろんな場所にユニバーサルデザインがあるように、どんな人にもやさしく助けてあげようとする気持ちをもって生活していきたいです。



福祉のことを学んだよ

長内小学校 四年

柏木 音愛

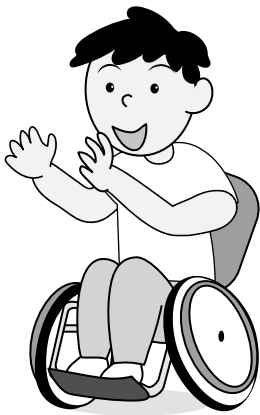
「福祉」という言葉は、なんだかむずかしそうな言葉だなと思っただけ、わたし達にとって身近なことだそうです。ふだんのくらしを幸せにする、という意味があります。「福祉」はむずかしい言葉ではなく、「おたがいに助け合う」ということだと思います。

わたしたちにとって身近におこなわれている「福祉」には、つぎのような活動があります。例えば、あいさつ運動、プルタブ回収、切手回収、花植え、美化活動、などです。わたしの通っている長内小学校では、児童会を中心に、あいさつ運動をしています。あいさつをするといいいことがあります。あいさつをすると、気持ちがよくなったりするし、相手の気持ちがわかったりします。ほかにもいろいろないいことがあります。おたがいのことを思っている行動も福祉の一つだと思います。

わたしは、学校で福祉出前こうぎをしました。うれしい者ぎじ体験では、ヘッドホンやゴーグル、手足のおもり、サポートー、をつけて、さいふからお金を出したり、色ペンの色を分けたり、ほかにもいろいろなことをしました。目の不自由な人の体験では、アイマスク、白じょうを使い、ろう下を歩いたり、

階段をのぼりおりました。うれしい者ぎじ体験で、びっくりしたことは、ゴーグルに、はくれないしょうのかわりにつけた白いゴムをつけると、ぜんぜん見えなかったことです。さいふからお金をだすとき、ふだんでは見えるはずの、おさつ、こぜにも見えなくなつてびっくりしました。目の不自由な人の体験では、黒いアイマスクをつけているので、階段をのぼりおりするとき、白じょうをつかつて大じょうぶか、かくにんしてみたり、友達が教えてくれたりしました。この学習をする前から、知っていることもあつたけど、体験すると、その人たちのたいへんさが、すぐわかりました。

これから、おじいちゃんとおばあちゃんもし体や目が不自由になつてしまつたら、福祉出前こうぎで学習したことを、思い出して手助けしたいです。私も、今書いたことで、できることがあつたらすすんでやってみたいです。



自分にできることから

山形中学校 二年

田中彩遥

コロナ等感染症の流行、人口減少、ネットによるトラブルなど今日、日本では様々な社会問題が取り沙汰されている。その中でも、よく耳にするのが「高齢化社会」に伴う問題である。しかも最近では「超高齢化社会」というらしい。日本は、一九七〇年に高齢化社会に突入し、二〇〇七年に「超」がつくようになった。調べてみると、日本の高齢化率が世界で断トツ一位であり、実に人口の三割以上が六十五歳以上の高齢者であった。

我が家は七人家族であるが、そのうち高齢者は三人。高齢化率はなんと四十三パーセント。まさに、我が家は超高齢者化家族である。田中家の最高年齢は九十六歳の曾祖母。今では一日のほとんどを寝て過ごしている。一日三回の食事の際に一時間程、家族のみなどと過ごす毎日である。曾祖母の姿を見て、笑い合えるのは一日のうち、ほんの少しの時間である。

曾祖母は最近、週に二回、近くの福祉施設に通っている。入浴し、昼食をいただき、昼寝をしたり、軽い運動をしたりして満足そうな笑顔で我が家に帰ってくる。そんな曾祖母の笑顔を支えてくれているのが、福祉施設の職員の方々である。毎回、

温かい笑顔で迎えてくださり、優しくサポートしている姿に感謝の気持ちでいっぱいである。さわやかな挨拶、大きな声で優しく語りかける口調、全てが介護のプロフェッショナルだと感じる。私も職員の方々の真似をして、大きな声で、

「今日は、楽しかったかあ。」

と耳もとで言うと、

「はい。楽しかったです。」

と、小さな頃から慣れ親しんできた笑顔で答えてくれる。そんな曾祖母だが、時々、私のことを覚えていないか不安になる。だから、

「彩遥ちゃん。おかえり。」

と名前を呼んでくれると、とても安心する。曾祖母の心の中に私がいると思うと、元気が湧いてくる。

笑顔が素敵な曾祖母であるが、変わってゆく面もある。少し前までは、九十歳を過ぎても毎日化粧をかかさずしていた。そんな曾祖母を見て、いつまでもおしゃれだなと感心していた。しかし、最近は化粧をしなくなった。日々の変化はあまり気づかないが、一週間、一カ月の長い目で見るとやはり昔と同じようにはいかない。人間誰しもが、そうなることは分かっている。それは止めることが出来ないものだ。だからこそ、支え合うことの大切さを感じる。

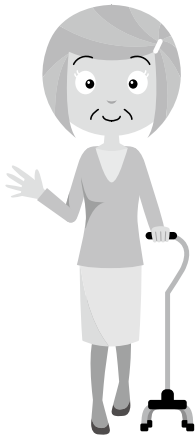
「できる人が、できることを誰かのためにする」そのことが、今の社会にはとても大切なことではないだろうか。我が家は高齢者である祖父母が曾祖母の介護をしている。いわゆる

老々介護は現在ではさほど珍しいものではない。だが、間近で見ているとその大変さを痛感する。

今までは介護の仕事に対して、正直あまり興味がなく、仕事の内容や働いている人の想いを知ろうとしていなかった。しかし、家族の現状を目の当たりにして、考えることが増えた。家族はもちろん、介護士の方や地域の方に支えられ、曾祖母は笑顔で生活を送っているのだ。できないからといってやらないのではなく、「自分にできることをまずは始めてみる」ことが私にとって大切なことだと思う。介護に限らず自分にできることを探し、曾祖母のために、家族のために頑張っていきたい。そうしていく中で、誰かのために力を尽くし支えられる人になりたいと思う。十年後、二十年後の未来に、たくさんの人を支えられるよう精一杯頑張っていきたい。

まずは、元気な声で

「おはよう。」から



優秀作

人の輪と幸せ

長内中学校 三年

速應 一弘

僕の祖父は「アルツハイマー型認知症」である。それでも、今も元気に生活している。

小学六年生のある日、大好きだった祖母が亡くなった。祖母は、祖父とよく口喧嘩もしていたが楽しそうに笑い合う姿が印象的な、とても仲が良い夫婦だった。

そんな祖母の死がきっかけのように、祖父は認知症になった。

学校の授業で認知症について学んだことがあったし、母が医療系の仕事をしていて認知症に詳しくあったこともあり、冷静に受け止めることができた。そして今は、家族全員で弱音を吐きながらも協力して祖父の介護をしている。

介護をしていくうえで肝心なのは、認知症でも相手のことをしっかりと受け止め、温かく接することだ。たまにニュースで次のような内容の事件を目にすることがある。

「認知症の母の介護に疲れ、殺害……。」

このようなニュースを見て、皆さんは何を思うだろうか。僕は、強烈な怒りと悲しさを覚えた。

祖父は、幼かった僕のわがままをいつも優しく受け止め、た

くさん遊んでくれた。またグローブを買うお金がくれたり、色々な所に連れて行ってくれたりもした。こんなにたくさんのお金をもらって、介護が嫌になり殺すなんて、絶対にできるわけではない。

確かに、介護は疲れることもあるし、嫌になることもあるかもしれない。僕も、家族のことや今まで当たり前だったことが分からなくなり、出来ていたことが出来なくなっていく祖父の姿を見るのはとても辛かった。でも、できる限りのことをしてあげられずにその人が亡くなってしまったら、本当に悔しいと思う。だからこそ、僕は、祖父が自分にしてくれたように、祖父に対していつも温かい心で寄り添っていききたいと思う。

祖父が認知症になった時、僕は、友達にそのことを話したくなかった。周りから笑われるのが怖かった。自分達や祖父がこんなに悩んでいるのに、笑われては悔しいからだ。でも今は、このように堂々と祖父のことを書くことができている。それは、今、祖父を含め家族みんなが頑張っているからだ。頑張っているから、笑われたとしても全く気にしない。こんなふうに家族が一つになって過ごす毎日を僕は誇りに思うし、大切にしていきたい。

幸せとは何か。ご飯が食べられること、家があること、そして、みんなが笑顔で暮らし、みんなで生きていけること、それが幸せだと思う。

僕は将来、医療系の仕事に就きたいと思っている。僕達家族のように頑張っている人達の笑顔や幸せを守りたい。たくさん

の人たちが手をつなぎ、一つの輪になって、みんなが介護やリハビリを頑張っていける医療現場を目指していきたい。おじいちゃん、元気に長生きしてね。

佳作

あなたの世界で

久慈中学校 三年

尾形 滯

みなさんは、「放課後等デイサービス」について知っていますか？

学校が終わった後、親が家に居ない等の理由で、学童を利用していても少なくはないと思います。

放課後等デイサービスとは、六歳から十八歳までの障がいのある就学児童が放課後や、夏休みなどの学校休業日に通う療育機能、居場所機能を備えた福祉サービスです。

私のお母さんは、以前、放課後等デイサービスに勤めていました。私は夏休みなどに、たまにそこへ行き、子ども達と一緒に遊びました。

そこにいる子どもたちはみんな、それぞれ違った障がいを持っていました。生まれつき眼球がなく目が見えない子や、自閉症の子もいました。

普段は、交流のないような人たちがたくさんいて、一人一人遊び方も違います。もちろん鬼ごっこなどもします。しかし、目の見えないAちゃんは、一人で歩くことはできません。だから、Aちゃんは職員の人や、年上の子と手をつないで楽しそうに走っていました。私もAちゃんと一緒に手をつないで遊びました。それまで私は、私が手を引っ張るのかなと思っていました。

が、Aちゃんの手をつないだ瞬間、Aちゃんは私の手を力強く握り返し、自分から勢いよく走り出しました。目が見えない、しかも生まれつきで、地面の草の色がどんな色で、空の色はどんな色かも分からない。でも自分の感覚や、手をつないでいる人を通して、自分なりの世界を形作り、色をつけて、そんな世界でAちゃんは生きていくのかなと思いました。地面の草をもぎとって私に、「はい」と手渡す。「ありがとう」そう返事をし、受け取ると、Aちゃんは私の声の方に顔を向けにこつと笑いました。私はその愛らしい笑顔を絶やすことなく生きてほしいなと思います。

私はそのように思い、今の日本は視覚に障害がある人たちのためにどのような工夫を講じているのか気になり、調べました。

まず、町などで見かけるバリアフリーです。

誘導用ブロックは、みなさんもよく見かけると思います。誘導用ブロックには二種類あり、安全な道すじを示す「線状ブロック」と一時停止や注意をうながす「点状ブロック」です。ま

た最近では、線路への転落防止のため、電車が到着すると開くホーム柵やホームドアを設置する駅が増えているそうです。これに関しては目の不自由な人だけではなく、幼児など日常的に危険と隣合わせの人にとっても画期的な工夫だと思いました。しかし、徐々に増えてきているとはいえ、田舎の駅や店ではまだ障がいを持った方に配慮した工夫がされていないなと思いました。

今こうして私たちが普段通りの生活を送っている最中にも、障がいを持った人が困っているかもしれない。

人が平等で豊かな生活を送るために、障がいを持った人への工夫や配慮が増えていけばいいと思いました。



福祉について

久慈中学校 二年

小 向 冬 愛

今回、この作文を書いたのは、ある出来事があつたからだ。それは今から二年前の十二月十六日の事だ。その日に私のおじいちゃんが亡くなった。「がん」だった。「がん」が発覚した頃には、「がん」が思った以上に進行し、私が小学校六年生の時の二〇二〇年十月十七日の土曜日におじいちゃんが家で血を吐き、救急車で運ばれ、病院で生活を送ることとなった。おじいちゃんは家族に迷惑をかけないよう「大丈夫」としか言わなかった。それから一カ月が山となり、吐くなどを繰り返し返えしていったらしい。「最後の一週間」と親に言われ、自分でもすごく混乱していた。「最後までいい家は家で過ごしてほしい。」それが、おばあちゃんのおじいちゃんへの最後の願いだった。それから、二〇二〇年十一月三十日におじいちゃんは家に帰ってきた。すぐにおじいちゃんの家泊まりに行き、手伝いをしに行った。私はそこから週末は泊まりに行つたが、言いたいことが上手く言えなかった。「今までありがとう」や、「早く元気になつてね」も、しつくりこないし、もう諦めているようで、勇気も出さず言葉にできず、そんな自分を今でも憎んでいるし、とても後悔している。

二〇二〇年十二月十三日、この日は私の誕生日だった。この日は、おばあちゃんの家でケーキを食べた。プレゼントはもらうつもりはまったくなかったが、帰る三分前ぐらい前におじいちゃんに「また来るね。」と言ったら、おじいちゃんが、「誕生日おめでとう。」と言ってくれて、握手をしてくれた。今まで、お金で買えるような物しかプレゼントといえないのかと思つたが、初めて、お金では絶対に買えず、まだその時は十二年という短い人生で一番嬉しい最高のプレゼントをもらった。それから、三日後の六時頃だった。「おじいちゃんが亡くなった。」朝起きて一番に聞いた言葉だった。その日は平日で学校を休まず、学校が終わつてからおじいちゃんの家へと向かった。家についてから、大きな後悔の波が心をえぐつてきた。私は昔から人が亡くなつたら、大きく心を打たれ、夜になると、一時間近く泣いていた。涙もろいことは知っていたが、ずっと泣いている自分に両親は心を鬼にし、「泣いたって今の現状が変わらない。だってそうでしょう？泣いたからって亡くなった人は帰つてこない。だから泣くのはやめなさい。」と言われていた。だが、今回のおじいちゃんの事は私がおじいちゃんが大好きだったため、沢山泣いても何も言わなかった。今でもおじいちゃんの事を考えても、よく泣くほど好きだった。おじいちゃんの隣で声を枯して泣いている時も、目を開けて起きてくれるのではないかと少し期待していたが、どんどん期待もなくなり、また、なぜ自分は生きている時に、感謝の言葉に表せなかったのかと、再度、自分の情けなさを思い知らされ、同時に

まだ未熟な自分の無力さにも腹を立て、負の連鎖が襲いかかっていた。それから自分の家に帰り、放心状態から少しずつ気持ちに整理がついてきて回復してきた。

少し時を経て、私はSNSを見ていると名言集とでてきて、私の心を大きく揺さぶられた。「親の死は子への最後の教訓」と書かれていて、考え方がプラスであり、衝撃を受け、心に残っていた。産まれたからには、死が待っている。それは、体験したことはもちろんないからすごく怖いけど、今はもう後悔したくないから、自分が本当に望んだ方に進むことを決めた。

私はこの先、生きている事をありがたさを感じながら、やるべきことは最後までやりとげるということを大切にしながら、学習面も生活面も、一日一日を貴重な時間だと実感しながら過ごしていきたいと思った。



佳作

福祉は幸せという意味

長内中学校 二年

小笠原 光 凜

私のおじいちゃんは「アルツハイマー型認知症」と診断されてから約四年たちます。

「アルツハイマー型認知症」とは、体験したこと全体を忘れ、新しい出来事を記憶できないことや時間や場所などの認識が混乱してしまう病気です。

病気が分かった時は、私はまだ小学四年生でした。祖父の病気のことは、伝えたことをすぐに忘れてしまうだけの病気と軽い気持ちでした。それから病気になってしまった祖父との生活が始まり、時が経つのと同時に病気も「進行」してしまいました。

去年家族で家での介護は難しいと考え、介護施設に行くことになりました。利用しているのは、デイサービスという朝夕方まで施設で活動するのと、ショートステイという何日か泊まりに行くような施設です。

私はこの二つの施設に祖父が通うようになり、福祉について知ったことがあります。

施設には、介護士さんだけではなく介護の段階をつけてくれたり、どうしたら快適な生活を送ることが出来るか相談してく

れるケアマネジャーさんがいます。利用者に合う介護施設を探し、提案をしてくれたりもします。その他にも、送迎をしてくださる運転手さんおいしそうなご飯を作ってくださいる調理師さんなど、直接利用者さんとは関わらないが、家族にとつては安心させてくれる方々がたくさんいることを知りました。

その祖父に関わってくださいっている方々が優しいことから、病気になる前から家であまり見せなかつた楽しそうに笑う写真を介護士さんからもらいます。それに、おしゃべりが大好きな祖父はいつも家に入る前に介護士さんと少しおしゃべりし笑い合つて、「どうもありがとうございます。」と一日のお礼を言います。介護士さんは優しい笑顔で、「またお願いしませう。」と言つてくれます。その会話が玄関から聞こえたとき、私まで毎回笑顔になります。

私の姉は、今大学四年生で、社会福祉の勉強をしています。姉が福祉関係に関わろうと思つた理由は、私達のように介護で悩んでいる人の力になれたら良いなと考えたからだそうです。現在大学の実習で、一か月間介護施設で学んでいます。関わり方で悩むことも多いようですが、実際にやってみると楽しいことも多いと話していました。

福祉にかかわる仕事は決して楽な仕事ではありません。コロナウイルスの影響で、できることに制限がかかっていることも多いと思います。しかし、誰かが笑顔でいれば周りの人も笑顔になります。福祉の仕事は、まさに「人々の幸せ」「世の中の幸せ」を感じられる職業であると思ひました。それととも

に、私は日々良い体験をしているんだなと改めて感じる事ができました。





「思いやり」

久慈東高校 二年

南野結月

私は夏休み期間中に、「思いやり」という言葉の意味について考えた。思いやりだと思おう行動を答えろ、と言われれば、いくつかは答えることができる。けれど、「思いやりとは何か？」と聞かれると明確に答えることはできなかった。最初に思いついたのは、「人に優しくすること」だった。しかし、この言葉も少し違う気がした。一人では答えが出せなかったため、友人に聞いてみた。私の友人は、「相手のためになるように、時には厳しく時には優しく相手を尊重しながら言動を選ぶこと」「相手の気持ちを考える」「自分主体にならない」と言っていた。私は友人のこの答えにとっても納得したのと同時に、優しさも思いやりの一種だと考え、私のために意見を出してくれた友人の優しさの中に思いやりを感じる事ができた。

私の友達の意見の中で一番印象的だったのが「自分主体にならない」だった。私は人に何かをやっても思いうりだと考えていた。しかし、この意見を聞いて考えが変わった。思いやりとは見返りを求めてやるものではないということだ。何かをやってもあげるといふ言葉は上から目線で思いやりではない。思いやりとは「相手に見返りを求めず相手が嬉しいと思う

行動する」ことではないかと考える事ができた。

思いやりとはなにか自分なりの答えを出す事ができて、自分の周りでも思いやりがないかを探してみたところ、実はたくさんあった。例えば、朝の通学電車の中。座席を詰めて座ることや、四人席にはなるべく一人二人で乗らないようにするか、相席で座ることも思いやりだと感じた。また、私は陸上競技部のマネージャーをしているが、私が重いものを持っている時には部員のみんなが手伝ってくれることも思いやりだと感じた。人に優しくされた人は優しくしてくれて嬉しい、人を思いやった人は相手が喜んでくれて嬉しい。そう思える人が増えれば、世の中はもっと明るく優しくなるのではないかと感じている。

これまで思いやりについて調べ、考えていく中で、自分の体験で思い出したことがある。それは、今年の春、買い物に行つたときに、女の子を抱っこしながら買い物をしていたお父さんとのやりとりである。私の目の前にいたお父さんは、会計が終わると、買ったものを袋に詰めようとしたが、女の子を抱っこしていたため、うまく袋詰めができない様子だった。私は自分の袋詰めが終わり、隣のお父さんを見ると、まだ苦戦しているようだった。声を掛けようかとても迷ったが、勇気を出してお父さんに声をかけてみた。

「お手伝いします。」

お父さんはとても驚いたような表情をしていたが、笑顔になって「ありがとうございます」と言ってくれた。本当にこんな些細なやりとりだったが、私は声を掛けて良かった、と心から

思った。ちよつとだけ自分が誇らしく思えた。意識はしていなかったが、自分も人を思いやって生活できていると気づくことができ、とても嬉しかった。

このような自分の体験を振り返ると、思いやりとは気づかないだけで、意外と自分の身近にたくさんあるということに気づくことができた。家族や友人が自分にくれてくれていること。それが本当に当たり前なのか。相手の優しさがあるからこそ成り立っている生活ではないのか、と考えてみてほしい。

思いやりは周りの人をよく見ながらできないことが多いと知った。だからこそ何気なく生活するのではなく、誰か困っている人はいないのか少し目を向けてみるのもいいのではないかと思う。相手が喜んでくれたり、自分にありがとうと言ってくれたりすると、自分の心までもが嬉しくなってくる。せっかくなら人の悪いところだけを見るのではなく、人の良いところや、困っている人がいたら助けてあげて、自分も相手も豊かな心になる体験をした方が、人生も楽しいのではないかと思う。思いやりが人生をより豊かにしてくれるものだ、今回改めて気づくことができた。思いやりの心をもって、他の人も自分も幸せな世の中にしていきたいと思う。

優 秀 作

負け組なんかじゃない

久慈東高校 二年

高山 七 楓

「福祉職の親だと、自分の人生も負け組。」この言葉は実際にSNSで私が見つけたものです。私の親戚には、高齢の方の介護、障がいのある方の介護をしている人がいます。そして、祖父母の介護をしている母の姿も幼い頃から見ているので、自分の身近な人たちが「負け組」と言われている気がして、悲しい気持ちになりました。

なぜ介護が「負け組」と言われてしまうのか、まず介護職について調べました。理由は大きく分けて三つありました。一つ目は人手が足りず余裕がない、ということでした。私は高校で介護福祉系列を選択し、介護福祉を中心とした福祉の勉強をしています。介護施設での実習も経験しました。その際「あっちのユニットで人数が足りなくて大変だから、手伝いに行くとよ。」と職員の方に言われたときに、人手が足りず余裕がないということを実感することができました。余裕がないと口調が強くなってしまい、人間関係の悪化につながり、長く働けない人が多いという理由もあるそうです。二つ目は、体力的にきついです。ということです。施設は二十四時間、三百六十五日運営しています。そのため、夜勤があること、介助の際に腰や膝を使

うことで、身体的な負担が多く続けられないという理由がある
そうです。これも実習で職員の方が仰っているのを耳にし、多
くの方が感じている問題であると感じました。三つ目は、介護
職は「きつい・汚い・危険」それに加えて「帰れない・厳しい」と最近では言われていて、労働条件が整っておらず、日本
の平均年収より低いという傾向があるそうです。この三つの大
きな理由により、仕事が続かない、お金に困っているといった
イメージが付き「負け組」と言われているのではないかと考え
ました。

実習を経て確かに大変だとは感じました。しかし、自分の話
をしてくれる利用者の方、笑顔で話をしてくださる方、そして
ありがとうと感謝してくれる方がいらっしやいました。私はこ
の体験から、介護は誰かのために役立つことこの素晴らし
さ、誇らしさを感じることができ、素敵な職業であると思っ
ます。私にはやはり福祉職が負け組だとは到底思えないので
す。

私は小学生の頃、ボランティアで活動していた高校生と、市
で行っているキャンプに参加しました。その頃はまだ人見知り
で周りの子たちと話すことができず、一人でいると、高校生が
一緒に話そうと誘ってくれました。このことをきっかけに友達
ができ、人と関わる楽しさを知ることができました。中学生に
なり、私もあの時の高校生のように困っている人のお手伝いを
したいと思い、キャンプのボランティアに参加しました。小学
生の頃の私と同じように一人でいる子に声をかけ、三日間ずっ

と一緒に過ごしました。最終日にその子が「ありがとう。私も
お姉ちゃんのようにになりたい。」と声をかけてくれました。こ
の経験は私の心に深く刻まれ、私もやはり誰かを助けられる
人、誰かの苦しみに気づけるような人になりたいといった夢、
目標を持つようになりました。私は小学生のあの時に出会った
高校生を目指しボランティアに参加しています。たった数秒の
出来事が、たった一つの声かけが、人の一生を変える出会いに
なることもあるのだと思います。

福祉職は対人援助職ともいわれ、毎日このような出会いの中
で、人と人が温かな言葉をかけあい、人が生きることや、その
人のたつた一度しかない人生を支えていく職業だと思っています。
仕事は大変かもしれませんが、やりがいのある素敵な職業であ
ることをもつと多くの人に知ってほしいと思います。私は福祉
の仕事に就く人たちを尊敬しています。これからも介護福祉系
列の一員として、福祉の大切さ、素晴らしさ、やりがいをまず
はしっかりと自分で考え、周り人にも伝えていきたいと思っ
ます。「福祉職は負け組」という人がいたのなら、誰かのため
に手助けをできる人、誰かを幸せにできる人、誰かに生きる希
望を与えられる職業であると、胸を張って伝えていくことがで
きるよう、私の理想の福祉職を目指していきたいと思っ

家族の介護と私の夢

久慈東高校 二年

廣崎 七海

私は、高校に入学してから七つある系列の中から介護福祉系列を選びました。なぜなら高校生になってから、曾祖母の身内での介護が始まったからです。父方も母方も曾祖母が生きていて、同じタイミングで介護が必要になってからお互いの大変な様子を間近で見ていたので、介護の道に進むことを決心しました。そこで私は、身内での介護について多くのことを感じるようになりました。

父方の曾祖母は、旦那さんを亡くしてから何年か一人で暮らしていました。しかし、もう一人では暮らすことが困難になり、私の大叔母の家に引き取られ、一緒に暮らすことになりました。食事は自分で摂ることができませんが、火や刃物を使つての調理は危険で難しいため、主に食事の準備などを手伝つてもらっていました。大叔母の家に来てから、私の家からも近くなり、会つて話す機会が増えました。その時に、「娘に申し訳ない、帰りたい。」と言われ、介護する側もされる側もそれぞれ感じる必要があります。つらい思いをして大変なこともたくさんあるんだと初めて実感しました。そしてお互いに新しい環境に慣れる必要があり、血のつながった家族だとしても、今まで以上

に気を遣わなければいけないことがわかりました。

介護が始まり、やはりお互いに限界があり、施設の方が良いのではないかと家族の中で意見が出され、曾祖母は施設への入所が決まりました。施設に入つてからは、楽しさを見つけたらしく、とても生き生きとした様子でした。その様子から、また家に帰ってききましたが、面倒をみる事ができる家族がいなかったため、施設に戻る事になりました。家に帰ってきて、最後に話したときに「もう施設へは行きたくない。家にいたい。」と本心を話してくれました。そして、施設に戻ると以前とは全く変わってしまったので、食事も他の方としなくなって、急に認知症が進行してしまつたようでした。私は、曾祖母の様子を聴いたときに、とても悲しくなりました。自分には何もできず、コロナの流行で自由に会いに行くこともできず、自分の無力さを思い知らされたようでした。

母方の曾祖母は、旦那さんを亡くしてから何十年も一人で暮らしています。今は認知症になつてしまいましたが、以前はずっとハウスでとうもろこしを栽培したり、ほうれん草を出荷したりしていました。認知症になつてからは進行を遅らせる薬を飲み、デイサービスにも通い、娘である私の祖母が毎日家に行つて食事や薬の準備をしています。認知症の症状で何度も同じことを聞いてきたり、今より過去の話をしたりするので中々話が噛み合わず、親子ということもあり、言葉遣いがぎつくなつてしまうことがあります。分かっているても強くあたつてしまう祖母も、曾祖母本人も、会話を聴いている私たちもつらく感じ

ることが多くなりました。最近は七月に暑くなり始めてから、曾祖母がもうすぐお正月がくると言い、ストーブをつけてしまふことがありました。ストーブは何十年も使っているもので片付けるのは良くないと判断し、電源を切って置いておいたのですが、違うものを出して部屋を暖めるようになってしまったため、すべて片付けて見えないところになってしまうことになってしまいました。私は、この問題が起きたとき、どう解決するのが良いのか全く分からず、何もできませんでした。

今の私の家族の中の大きな問題は、父方、母方という違う家庭での介護が、同じタイミングで始まったことだと思います。

このような問題に直面している際、家庭は当事者であるからこそ、問題の解決にとても苦勞しています。例えば誰が介護するか、金銭面の負担は、施設はどうするかなど、曾祖母本人だけでなく、なかなか決められない難しい問題も表面化してきました。介護が必要でも、曾祖母には曾祖母らしく生きてほしいと思います。そのために自分ができることは、介護について勉強し、自分の家族や身近な人の介護について困っている方の助けになることだと思います。こうして身内の介護を目的の当たり前にして、介護をする側の大変さやつらさ、介護をされる側の本心など、いろいろなことを感じました。あまり目には見えない問題もたくさん起こることもわかりました。今の私は介護や社会福祉について学び、その知識や技術を持って家族を助けていきたいと思っています。そして、この経験を生かして、介護について悩んでいる方々の力になれるよう、相談員や介護士など、

本当にやりたいことを見つけて頑張っていきたいと思っています。高校生の私にもできることを一つでも多く見つけ、介護する側もされる側も自信を持って支えられるようになることが、今の私の目標です。



審査委員の感想

審査委員長 村上嘉郎

○講評（小学校低学年・小学校高学年の部・高等学校の部）

今年度の福祉作文コンクールも多くの児童生徒の皆さんから応募がありました。応募作品は、介護体験や日常生活の出来事を基に「思いやりの心と助け合いの心」や、「障害理解」、そして「地域社会への理解と関心」などについて熱く述べられた作品が多く寄せられ、児童生徒の皆さんの素直でやさしい気持ち伝わってきました。

小学校の部には二十編の応募がありました。その中で低学年の部で最優秀に選んだ作品は、特別支援学校との交流会を楽しみたいという内容でした。ペアになった友達と苦手な共通点を見つけたことにより一緒に楽しめるようになったこと。そして次の交流会では、お互いにやりやすい遊びを考えて楽しみたいと抱負を綴ったものでした。「喜んでもらいたい」という表現に相手を思いやるやさしさを感じられる内容でした。

高学年の部で最優秀に選んだ作品は、車椅子と白杖体験を通して、困っている人がいたら助けてあげたい気持ちを綴った内容でした。「自分の足が不自由だったらこのようにして欲しい」とか「自分の目が不自由だったらこのようにされるのは嫌だ」など、支援される側の立場に自分を置き換えて想像力を働かせた点が大いに評価できる作品でした。

高等学校の部には七編の応募がありました。その中で最優秀に選んだ作品は、「思いやり」の意味について深く掘り下げて考えたものでした。思いやりとは自他ともに豊かになるもの、と結論付けて幸せな社会にしたいとの決意は力強さを感じました。自問自答し、友人に質問してみたり、対話を重ねたりしながら自分の考えを徐々に広げて結論をまとめた点が大いに評価できる作品でした。

今回の応募作品は、他者の身になって考えるという内容が多く見られました。このことは、互いを尊重して主体的に生活するという共生社会の実現に向かっていく表れであると考えます。これからも作文を通して考察力を高め、よりよい地域社会について共に考えていきましょう。

副審査委員長 石 関 由 香

○講 評（中学校の部）

次代を担う児童・生徒を対象に、福祉作文を通じて、思いやりの心や助け合いの心を養い、自分たちが暮らしている地域への理解と関心を高めることを目的として、本コンクールが実施されています。

中学校の部には二十四編の応募がありました。福祉について、日常生活の中で体験したことをもとに、感じたことや考えたことを、自分なりの言葉で素直に表現している作品ばかりでした。

最優秀に選んだ作品は、曾祖母の介護を目の当たりにし、社会問題として、高齢化社会や老老介護に着目し、できないからといってやらないのではなく、自分にできることから始めてみることを大切であることを主張していました。そして、作文の最後を、十年後、二十年後の未来に、たくさんの人を支えられるよう精一杯頑張っていきたい。まずは、元気な声で、「おはよう。」から。で締めくくっているのも印象的でした。きっと、この思いは読み手にも伝わり、「これならできそうだ」とか「自分は何をやろうかな」などと、「福祉」を身近なものに感じるきっかけを与えてくれるものでした。

作文を書く上で大切なのは、自分が伝えたいことを読み手に伝わるような文章にするために、まずは、文章の構成をじっくり練ることです。さらには、文章表現もわかりやすい言葉で具体的に書くことで、読み手と共有できると思います。その他に、大きく濃い丁寧な文字で書くことにより、より伝えやすくなると思います。

これからも、福祉作文コンクールが、様々な実体験をもとに、「真の幸福」について考える一助となってほしいです。

令和4年度福祉作文コンクール応募者・入選者

■小学校低学年の部

No.	学校名	学年	氏名	題名	賞
1	侍浜小学校	3	おやまだ 小山田 幸 禾 くわ た 桑 田 紗 那	交流会をしてかわったこと	最優秀作
2		3	お なし ゆい い 尾 無 結 衣	交流をしてわかったこと	優秀作
3		3	お なし ゆい い 尾 無 結 衣	しょうがいがあっても同じ	佳作

■小学校高学年の部

No.	学校名	学年	氏名	題名	賞
1	長内小学校	4	たに むら ゆき なが 谷 村 幸 永	みんなのユニバーサルデザイン	佳作
2		4	とよ まき み う 豊 巻 未 羽	福祉の村と手話の大切さ	
3		4	し さく かえ ら 四 作 楓 來	福祉のぼ金のことについて	
4		4	ひろ さき み そ ら 広 崎 心 奏 空	知らなかった福祉	
5		4	かしわ き おと あ 柏 木 音 愛	福祉のことを学んだよ	佳作
6	小久慈小学校	4	く とう ほの か 工 藤 萌 風	体験してわかったこと	
7		4	かしわ さき かん な 柏 崎 葉 奈	今、わたしにできること	
8		4	おお した かん な 大 下 葉 奈	わたしたちにできること	最優秀作
9		4	なか の み らあ 中 野 美 映	「大切なこと、大事なことを学んだよ」	
10		4	く ぼ せ な 久 保 聖 菜	今わたしたちにできること	
11		4	きし さと はる と 岸 里 陽 斗	今ぼくたち、わたしたちにできること	
12		4	かけ はた の あ 欠 畑 乃 愛	今わたしたちにできること	
13		4	おく であ えい た 奥 寺 瑛 太	今ぼくたちにできること	優秀作
14		4	なか むら たい せい 中 村 大 晟	「今、わたしたちにできること」	
15		4	び わ あい り 枇 杷 愛 莉	今、自分にできること	
16		4	いわ い は お 岩 井 羽 桜	「車いす体験アイマスク白杖体験」	
17		4	ね い ゆい と 根 井 結 都	初めてのキャップハンディ体験	

■中学校の部

No.	学校名	学年	氏名	題名	賞
1	久慈中学校	3	及川優斗	胸を張れ	
2		3	尾形 滯	あなたの世界で	佳作
3		3	北村 壮太	身近な幸せ	
4		3	下館 凛香	福祉と選挙	
5		3	少路 陽	知るといふ支援	
6		3	繁名 真穂	障害は身近にある	
7		2	石井 崇真	福祉って何？	
8		2	木村 隆寛	幸せについて	
9		2	小向 冬愛	福祉について	佳作
10		2	菅原 七星	私が思う福祉とは	
11		1	稲葉 伽月	「けがをして気づいたこと」	
12		1	柳清水 利空	いつもの生活	
13	長内中学校	3	菊池 優菜	一枚のいじめアンケート	
14		3	坂本 愛莉	体験を通して	
15		3	佐々木 友結	温かい思いを紡ぐ未来	
16		3	速應 一弘	人の輪と幸せ	優秀作
17		2	女澤 芽衣花	「関係ない」では終われない	
18		2	小笠原 光凛	福祉は幸せという意味	佳作
19		2	甲地 桜	幸せの作り方	
20		1	中村 理々華	手を差し伸べよう共に生きるために	
21		1	勝田 彩桔	幸せとは？	
22		3	関上 美桜	しあわせについて	
23	3	野崎 瑠	幸せについて		
24	山形中学校	2	田中 彩遥	自分にできることから	最優秀作

■高等学校の部

No.	学校名	学年	氏名	題名	賞
1	久慈東高校	2	廣崎 七海	家族の介護と私の夢	佳作
2		2	尾坪 ことの	相手を思いやるということ	審査委員会特別賞
3		2	南野 結月	「思いやり」	最優秀作
4		2	新井田 飛徠	優しい言葉	
5		2	大沢 心月	言葉と人と幸せと	
6		2	高山 七楓	負け組なんかじゃない	優秀作
7		2	熊谷 和香	障害を理解するということ	

令和4年度福祉作文コンクール実施要項

1 趣 旨

次代を担う小・中・高等学校の児童・生徒を対象に、福祉作文を通じて、思やりの心や助け合いの心を養い、自分たちが暮している地域への理解と関心を高めることを目的として福祉作文コンクールを実施する。

2 主 催

久慈市社会福祉協議会

3 後 援

久慈市教育委員会

4 募集内容

日常生活の中で感じたこと、考えたこと、体験したことなど。
※別添資料を参考にしてください。

5 応募資格

市内の小学校・中学校・高等学校に在籍している児童・生徒

6 応募方法

(1) 制限枚数（字数）

- ・400字詰原稿用紙を使用
- ・小学生低学年（1～3年生）2枚以内
- ・小学生高学年（4～6年生）2枚以上3枚以内
- ・中学生2枚以上4枚以内
- ・高校生5枚

(2) 応募数

各小学校10編以内、各中学校10編以内、各高等学校10編以内

(3) 応募先

久慈市社会福祉協議会 福祉作文コンクール係

〒028-0014 久慈市旭町7-127-3 TEL 53-3380

(4) 応募期間

令和4年9月1日（木）～令和4年9月15日（木）必着

7 審 査

主催者で設置する審査委員会で決定する。

最優秀作：各部門各1編 優秀作：各部門各1編 佳作：各部門各1編以上

審査委員会特別賞：全部門若干

8 入選発表

令和4年11月に入選者の在籍する学校長に通知する。

9 表彰

入選者へは、主催者より賞状を贈る。

10 その他

- (1) 応募作品は原則として返却しない。入選作品の著作権は主催者に帰属する。
- (2) 主催者において入選した作品をまとめた作文集を発行する。
- (3) 本事業は赤い羽根共同募金の助成を受けて実施する。
- (4) 最優秀作受賞者に記念品（図書カード3,000円分）を贈る。
- (5) 優秀作受賞者に記念品（図書カード2,000円分）を贈る。
- (6) 佳作受賞者に記念品（図書カード1,000円分）を贈る。
- (7) 応募者に記念品（図書カード500円分）を贈る。

<指導にあたっての参考>

「福祉」の「福」も「祉」も幸せを意味しています。福祉というのは、すべての人が、精神的にも、経済的にも満たされている幸せな姿、あるいはそれを実現するための努力のことです。先生がたのご指導にあたっては、次のことがらなども参考にしてください。また、題名は統一させずに、個々の表現で書くようにご指導ください。

募集する具体的内容は

- ◇ すごく幸せな様子と、それがどのようにしてそうなったのか。
- ◇ 恵まれていない、満たされない方々の様子から考えたこと。その方々のために何をしたいか。何をしたいか。
- ◇ お年寄りや身体の不自由な方々について、考えたこと。したこと。したいと思うこと。
- ◇ 差別やいじめについて考えたこと。
- ◇ 戦争や紛争や災害で、幸せでなくなっている方々について考えたこと。したこと。したいと思ったこと。
- ◇ 自然災害で体験したこと。考えたこと。
- ◇ 「福祉」について日ごろ考えていること。
- ◇ 社会問題（貧困や虐待、老老介護など）について考えたこと。したこと。したいと思ったこと。
- ◇ コロナウイルス等社会情勢について感じたこと

では、その材料は、どこから見つけるのか？

- ◇ 家族のふれあいや、出来事の中から
- ◇ 学校や友達とのふれあいで体験したり、見たり聞いたりしたことの中から
- ◇ 近所で見聞きした出来事の中から
- ◇ 地域活動、体験活動、訪問活動、交流活動などに参加した体験の中から
- ◇ 読書体験の中から
- ◇ テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどで見聞きした中から

令和4年度福祉作文コンクール審査委員

職名	氏名	所属団体等
委員長	村上嘉郎	久慈拓陽支援学校長
副委員長	石関由香	侍浜小学校副校長
委員	大槻桐子	久慈中学校
委員	菅原有希子	長内中学校
委員	高屋敷真喜子	久慈市ボランティア連絡協議会長
委員	古山誠	久慈市福祉事務所社会福祉課長